

令和5年9月1日(金)

魚沼きこえの教室だより

令和5年度 第4号

長岡聾学校小出分教室(小出特別支援学校内)

きこえの教室 担当:高橋 登

〒946-0035 魚沼市十日町 1738-2

TEL:025-792-5462 fax:025-792-5465

mail:takahashi.noboru@nein.ed.jp

小学校や中学校で学んでいる難聴児童生徒への理解と支援ありがとうございます。各学校では2学期がスタートしました。まだまだ残暑が厳しい時期です。補聴器や人工内耳の管理をよろしくお願ひします。



9月になっても 補聴器・人工内耳の手入りをしっかり！

9月となり、朝晩の気温も下がって過ごしやすくなってきました。ただ、日中はまだ気温が高く、真夏並みになる日もあります。夏を乗り切った補聴器や人工内耳も、手入れを怠っていると故障してしまいます。補聴器や人工内耳にとって、9月もまだまだ過酷な季節と言えます。今回は夏から秋に多い補聴器や人工内耳の故障と対策について紹介します。

◎対策としては3つ！

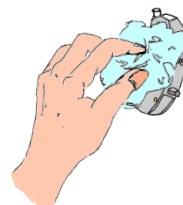
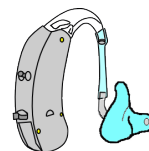
① こまめに汗を拭き取る。

補聴器や人工内耳を外したら、まずは乾いた布などで拭く。

その後に補聴器は電池室を開ける、人工内耳は充電電池を外す。

② 電池自体もよく拭く (強くゴシゴシ拭かないでください)。

③ 乾燥ケース、または乾燥機に入れる。



補聴器、人工内耳の
周りをよく拭く！
また、耳の周りの髪
の毛も。

学校生活の中で特に気をつけていただきたいのが、①です。体育など体を動かした後などに「補聴器(人工内耳)を拭こうね」と声をかけたり、汗を拭き取る時間を確保したりすると良いと思います。

もし、学校で補聴器や人工内耳のトラブルが疑われるときは、すぐに保護者に連絡をし、補聴器販売店などで見てもらいましょう。また、きこえの教室にも連絡をいただければ、できる限りの対応をします。

「魚沼地域子どものきこえの相談室」より

6月号でも紹介した「魚沼地域子どものきこえ相談室」を利用いただきありがとうございます。昨年度から今年度にかけて、小学生の相談が増えています。相談後の継続指導、通級措置のケースもありました。気になる子がいる場合は、難聴の程度にかかわらず相談いただきたいと思います。

身近にある難聴 ① 「突発性難聴」

とつぱつせいなんちよう



突発性難聴は、突然、左右の耳の一方(まれに両方)の聞こえが悪くなり、耳閉感、耳鳴り、めまいなどを伴う原因不明の疾患です。30～60代の年代に多く、ストレスや過労、睡眠不足などがあると起こりやすいと言われています。男女差はありません。

発症後1週間以内に治療を開始することが重要です。治療で完治する方は1/3程度、発症時より改善するが元には戻らない方が1/3程度、治療に反応しない方が1/3です。治療開始が遅れば遅れるほど治療効果は下がり、完治が難しくなります。

突発性難聴が疑われる症状がみられたときは、すぐに医療機関を受診しましょう。また、家族や職場でそのような方がいた場合は、医療機関の受診、治療を勧めてください。e-ヘルスネット(厚生労働省)より